

防災・減災シンポジウム

～東日本大震災から学ぶ災害医療と地域連携～

〈RU11(学術研究懇談会)共催事業〉



世界中に衝撃を与えた東日本大震災は、災害への備えのみならず、社会のあり方そのものを見直す必要があることを私たちに提起しました。未曾有の大震災から半年をむかえようとする今、記憶を風化させることなく、何を学びどう生かしていくべきか、一人ひとりが本気になって考え、その知恵と教訓を、未来へとつないでいかなければなりません。今回のシンポジウムでは、私たちの命を守る「災害医療」と、災害時に不可欠な「地域連携」について、一緒に考えていきたいと思います。多くの皆様のご応募を心よりお待ちしております。

9/3 Sat 名古屋大学豊田講堂

(名古屋市千種区不老町)

【午前の部】10:00～13:10 【午後の部】14:30～17:30 ※予定

同時開催／日本赤十字社 愛知県支部によるミニ講座、東日本大震災写真展

【午前の部】1,000名様
【午後の部】1,000名様
※午前と午後は別のシンポジウムのため、聴講者は入れ替え制
ご招待

午前の部「災害医療の最前線～大震災から命を守る～」

10:00～

- 10:00 開会挨拶 濱口道成(名古屋大学総長)
- 10:10 講演 「災害医療～大震災から学んだ教訓～」
石川 清(名古屋第二赤十字病院 病院長)
プロフィール／名古屋市出身。名古屋大学医学部卒。阪神大震災、スーダン紛争、イラン南東部地震、スマトラ沖大地震など、国内外の災害現場での救護活動経験が豊富。今回の東日本大震災では、自らも2回現地入りし被災者支援にあたった。
- 10:50 活動報告 「こころの痛みを癒すー災害とこころ・脳」 尾崎紀夫(名古屋大学医学部附属病院 精神科 教授)
- 11:10 活動報告 「震災に負けない、医療をつなぐお薬手帳」 山口一丸(愛知県薬剤師会)
- 11:25 活動報告 「東日本大震災における愛知県医師会の医療救護活動」 大野和美(愛知県医師会 副会長)
- 11:40 休憩
- 11:50 トークセッション 「経験から学ぶ災害時医療と一人ひとりの心構え」
石川 清 大野和美 勝見章男(愛知県薬剤師会 副会長／愛知県病院薬剤師会 会長)
亀島加代(名古屋大学医学部附属病院 看護部看護師長)
【コーディネーター】松尾清一(名古屋大学医学部附属病院 病院長)
- 13:10 閉会



ヘリコプターで搬送された患者を受け入れる ©日本赤十字社

●応募方法

2011年8月25日(木) 必着

はがき・FAX・e-mail とも、①住所(〒)、②氏名(フリガナ)、③年齢、④電話番号、⑤参加人数(4名様まで可)、⑥参加希望時間(午前、午後、午前・午後両方)を明記の上、下記の宛先までお送りください。当選された方にご招待状をお送りいたします。

※応募多数の場合は抽選

※当選者の発表は招待状の発送をもってかえさせていただきます。お送りいただいた個人情報は朝日新聞社でとりまとめ、招待状の発送および個人を特定しないデータとして使用させていただきます。

●はがき

〒460-8488 (住所不要)
朝日新聞社広告部
「防災・減災事務局」宛

●FAX

052-221-5804
「防災・減災事務局」宛

※A4大の用紙に必要事項を明記のうえ、お送りください。

●e-mail

nadv-2@asahi.com
件名「防災・減災事務局」

午後の部「地域連携～地域の絆がひととまちを守る～」

14:30～

- 14:30 開会挨拶 鈴木康弘(名古屋大学 教授／総長補佐)
- 14:40 活動報告 「足湯ボランティア～つづきで綴る被災地の現状～」
栗田暢之(NPO法人レスキューストックヤード代表理事)
プロフィール／1995年の阪神・淡路大震災時に、1,432名のコーディネーターとして被災者支援を経験。KOBEの教訓を生かすことなどを目的としたボランティア団体「震災から学ぶボランティアネットワーク」の会では事務局長に就任。同会を発展的に解消して「特定非営利活動法人レスキューストックヤード」が認定されたことで、同法人の常務理事兼事務局長を経て現在に至る。東海豪雨水害時には愛知県の「愛知・名古屋水害ボランティア本部」の本部長を務めた。
- 15:10 活動報告 『SNSを活用した即効力支援から、中長期的な支援「元気玉」へのシフト』
伊勢谷友介(株式会社リバースプロジェクト 代表／俳優)
REBIRTH PROJECTについて／「人間が地球上に生き残るためのプロジェクト」をテーマに、伊勢谷友介代表のもと、様々な才能を持った仲間が結集し始めました。未来に生きる子供たちのために、私達人人がどんな姿を見せて行くのか。そのために、必要な価値観や考え方を、私達はプロジェクトで表現しています。私達が生きている現実社会のステージは「地球」になります。この地球全体を発達するための知性や想像力、「地味な知性や想像力」が必要とされる時代になりました。私達が守らなければならないことは、地球にとっての利益と、国や地域、企業や個人の利益のバランスを取り、どちらかに加担するのではなく、未来に継続して行く世界を作っていくしかないと思っています。
- 15:50 休憩
- 16:00 トークセッション 「被災地に学ぶ地域連携のあり方」
栗田暢之 伊勢谷友介 神島清司(トヨタ自動車株式会社 総務部 総務室長)
長崎 弘(名古屋市消防局 防災・危機管理監) 伊藤智章(朝日新聞社名古屋支局)
【コーディネーター】福和伸夫(名古屋大学 教授)
- 17:30 閉会

※プログラム及び登壇者につきましては変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

お問い合わせ先／防災・減災シンポジウム事務局 TEL(052)231-5537(午前10時～午後5時30分、土・日・祝を除く)

主催／名古屋大学、朝日新聞社 特別協力／日本赤十字社 愛知県支部

後援／愛知県、名古屋市、愛知県医師会、愛知県薬剤師会、愛知県病院薬剤師会、愛知県看護協会、社団法人 中部経済連合会